



米国からインドへ、愛をこめて

このコラムは、もう何年にもわたり弊グループ（United GIPs）に所属する事務所が持ち回りで書かせてもらっている。“米国”の回では、普通なら米国内のことを書くのであるが、今回は、「米国に住む日本人からみてインドが熱い」というテーマで書きたいと思う。

昨年春に“コロナ明け”となり、知財関係者においても世界を飛びまわる活動が再び活発になってきた。今春は、外国の代理人による日本訪問もかなりの数に上ったようだ。

そんな中で、United GIPsグループの代表として私が最も注目している国はインドだ。米国に住んでいると中国に対するdecouplingのムードが強く、次に注目すべきはインド、とするのが素直なビジネス感覚のように思えるのである。

その感覚に導かれるように、昨年11月、12月、そして今年4月に、トントンと3回のインド出張を決行した。ただしきっかけは、弊グループのインド事務所GIP Indiaの設立10周年記念パーティへの出席を要請されたからだ。

このパーティは、コロナの関係で10年目には開催できず、厳密には11周年を祝う形の記念パーティとなった。そして、United GIPsグループ代表としての私への注文内容は、45分間のプレゼンテーションだった。記念パーティでのスピーチなので、当初、4～5分の間違いかと思ったが、45分で正しかった！指定されたテーマは「My Journey with the United GIPs & Doing Business in India」。

いろいろ考えて、1988年に最初の事務所を大阪で設立してからの歴史を、その間のインドのGDPの発展と並行して話す内容とした。



その準備をしながら知ったのだが、現在のインドのGDPは、バブル経済真っ只中だった1988年の日本のそれを、数字（米ドル）の上ですでに超えている。また、インドのGDPは同期間中に10倍以上伸びた。まさしく、経済成長する国インド、である。

その他、人口規模の巨大さと国民の平均年齢の低さ（現在28歳）も特筆すべき特徴となる。これらの特徴は、実際に現地に行くと人々に会えば、「勢い」の違いとして実感できる。日本に帰ったときに感じる少子高齢化社会の雰囲気とは真逆の状態にある。ちなみに、写真は、11周年記念パーティ会場にて撮ったもの。皆、若い！40代の所長を除けば、全員20～30代。



直近の、今年4月のインド出張時には、インド日本商工会（JCCII、ニューデリー）にて「特許のすゝめ」と題した日本人向けのセミナーをやらせていただいた。「背負っているビジネス上の責任は重いの特許に関しては素人、とおっしゃるインド滞在中の日系企業人」（募集パンフレットより）をターゲットとしたもの。

特許のすゝめ

「特許の文明開化」下のインドで日本企業が知っておくべきこと



宮川良夫・Kshitij MALHOTRA
インド日本商工会（JCCII）（ニューデリー）
共催：KrayMan Consultants LLP・Global IP India・United GIPs

KrayMan Demystifying Complexities
GIP GLOBAL IP India
United GIPs

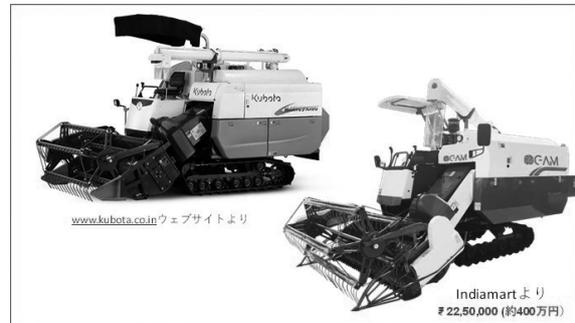
2024年4月18日

インドに「現地」活動拠点を置く日本企業は増えている。特に製造業では、インドでの製造活動において発明がなされる場合があるし、フェーズが進んだ企業ではすでにインドに研究開発拠点を置いておられるところもある。そのような背景を踏まえて設定したテーマだった。

このセミナーは、まったくの特許初心者に聴いてもらうことを前提に、大上段に「特許とは何ぞや？」みたいなところから説く内容とした。目次は以下の通り。

1. 「特許」は人類にどのように貢献するのか？
2. なぜ、特許制度は国ごとに存在し、異なっているのか？
3. 特許をとるために気をつけたいこと。
4. インドで特許をとるために気をつけたいこと。
5. 裁判例（特許をとる価値、他人に特許を取られた場合のインパクトを実感するために）

インドにて特許に関する争いに巻き込まれている日本企業はすでに出てきている。そして、これからその傾向はますます強くなっていくと予測するしかないだろう。



今書いているこの稿が「知財ぷりずむ」8月号にて出版されるのは、数日前に日本出張を終えたばかりのタイミングとなる。この日本出張では、弊グループのGIP Indiaの代表と共に日本での営業活動を行う。日本において、インドそしてGIP Indiaを売り込む活動だ。

インドの経済発展が日本経済の発展の一助となるだけでなく、弊グループのインド拠点の発展、ひいては弊グループ全体の発展をけん引する力強い動力源となることを期待している。日・印・米をまたいだ活動をこれからも活発に行っていきたい。

米国から愛をこめて…ガンバレIndia！

著者紹介



宮川 良夫(みやがわ よしお)

United GIPs代表、弁理士・米国パテントエージェント

1956年 京都生まれ。1978年 同志社大学工学部卒業。1986年 弁理士登録。1997年 米国パテントエージェント登録。弁理士法人新樹グローバル・アイピーを初めとして、世界8カ国（地域）にて10カ所の弁理士事務所設立、経営に携わる。1995年以来ワシントンDCに滞在し、現職場はUnited IP Counselors, LLC。趣味は、Rock Creek Parkを有効活用した犬の散歩と子（孫？）育て。好きな言葉は「天地不仁」。